



グループで運動に取り組む参加者

コグニサイズで認知症予防

3月27日に、認知症予防教室の修了式が総合会館で行われ、全18回のプログラムを修了した31人に修了証が手渡されました。

教室ではコグニサイズと呼ばれる脳と体を同時に鍛える運動を県内市町村で初めて取り入れ、参加者同士が楽しみながら認知症予防に取り組んできました。今年度も桜ヶ丘公民館、帷子公民館で同様の教室を実施するなど、認知症予防の取り組みを進めていきます。

カタクリまつりを開催

可児川下流域自然公園で3月25日と26日の2日間、カタクリまつりが開催されました。公園内にはカタクリ約10万株が群生し、遠方からも写真愛好家が訪れる名所となっています。

今年は開花が遅れ全体の1割ほどしか咲いていませんでしたが、会場には郷土料理「サヨリめし」の販売や押し花を使ったしおり作りの体験ブースなどが出店し、多くの来場者が春のひと時を満喫しました。



しおり作りを体験する来場者

にぎわいと潤いに満ちた空間へ

市民と市が進める木曽川周辺の整備計画が、国土交通省が展開する河川を活用したかわまちづくりの支援制度に登録され、その伝達式が行われました。

今渡から土田にかけての木曽川左岸は地元ボランティアにより整備され、木曽川を間近に眺めながら散歩できる遊歩道があります。3月26日にはかわまちづくりの一環として、この遊歩道を含むコースでウォーキングイベントを開催しました。現地では整備活動を行った地元ボランティアが、木曽川にまつわるさまざまな話を紹介。参加者は興味深い話に耳を傾けながら景観の良い道を楽しみました。

市は今後、河川管理者である国の支援を受けながら、遊歩道や子どもを中心とした幅広い年齢層の遊び場の整備を進めます。また自然に親しむイベントの開催など、市民にも市外の来訪者にも親しまれるかわまちづくり事業を推進していきます。



塚原中部地方整備局長(左)から登録証を受け取る富田市長



話を聞きながら木曽川遊歩道を散歩する参加者たち



流鏝馬(やぶさめ)祭りの様子

人馬一体、参道を駆ける

4月2日、土田の白鬚神社の大祭・流鏝馬祭りが行われました。五穀豊穡を祈願する春の例祭で、本殿から御旅所までみこしを運び神事を挙げる祭りと、地元の若者が馬に乗って参道を駆け抜ける流鏝馬が行われています。

乗り手に選ばれた地元の若者2人が人馬一体となって約400mの参道を駆け、的に向かって矢を投げると、沿道に集まった観客から大きな歓声が上がりました。



受賞を報告する中島団長

地域をつなぐ消防団

市消防団が消防庁から消防団等地域活動表彰を受賞し、3月15日に中島団長が受賞を報告しました。これは、消防団の地域での活動や、平成26年に発足した女性消防団の活動が認められたものです。

市長は「消防団は地域の大切な組織であり、消防団員となって成長する若者も多い。この受賞を機により多くの人に消防団の良さを知ってもらいたい」と話しました。

にぎわい集まる桜まつり

兼山の蘭丸ふるりの里の森で4月2日に開催された、美濃金山城桜まつり。

当日は各種団体による演奏や、可児市の観光物産品の販売、国史跡・美濃金山城跡の見学ツアー、チャンバラ合戦などが行われ、祭りを盛り上げました。

会場では兼山保育園による野点も行われ、園児たちは丁寧にお茶をたてて振る舞うなど、来場者をもてなしていました。



お茶をたてる園児

はぐみの森保育園が開園

認可保育園「はぐみの森保育園」が塩地内に完成し、4月1日に開園しました。同園は、待機児童対策として市が無償貸与した土地を社会福祉法人・村の木清福会が整備し、運営しています。また可児川など豊かな自然環境に恵まれており、隣接する老人福祉施設・可児川苑との連携も期待されています。

同園の他にも瀬田地内に小規模保育園が新たに1園開園されるなど、高まる保育需要に応える取り組みを進めています。



開園したはぐみの森保育園